

## 令和5年度 第1回我孫子市廃棄物基本問題調査会議事概要

1. 会議の名称 我孫子市廃棄物基本問題調査会
2. 開催日時 令和5年11月8日（水曜日） 午後2時から
3. 開催場所 千葉県我孫子市中峠2274番地  
我孫子市クリーンセンター 3階 大会議室
4. 出席委員 出口浩、吉川康之、鈴木泰子、伊藤啓子、内藤勝信、  
中野優、清家芳光、日笠克巳、亀田清範（以上9名）  
欠席委員 宮田幸雄、山口貴司、和久井綾子、若王子範文（以上4名）  
事務局（市） 山本環境経済部長、岡田生活衛生課長、嶋田手賀沼課長、  
野村資源循環推進室長、小嶋資源循環推進室長補佐、  
藤澤、五十嵐、関根
5. 議 題 (1) 報告事項「令和5年4月1日からの組織体制について」  
(2) 報告事項「我孫子市一般廃棄物処理基本計画について」  
(3) 議 題「一般廃棄物処理手数料の改定について」
6. 公開 公開
7. 傍聴人 なし
8. 会議の内容  
(1) 報告事項「令和5年4月1日からの組織体制について」  
事務局から第四次総合計画に基づき、環境に関する基本施策のうち「地球環境の保全」「自然環境の保全」「生活環境の保全」を所管する組織を明確にするために実施をした環境経済部の組織再編について説明を行った。  
(2) 報告事項「我孫子市一般廃棄物処理基本計画について」  
事務局から、一般廃棄物（ごみ・生活排水）の減量化・資源化や、適正な処理を推進するための基本的な方針である我孫子市一般廃棄物処理基本計画について説明を行った。

### 【主な質疑回答】

- 委 員 最終処分量及び最終処分率に記載されている、燃やせないごみ（剪定枝木チップ・落ち葉・雑草）の最終処分量が令和3年度に大幅に減少した要因について教えてください。
- 事務局 燃やせないごみとしている、剪定枝木・落ち葉・雑草については、外部委託業者に委託をしていますが、焼却処分した灰について、そのまま埋立を行うのではなく、できる限りの資源化（路盤材等）をしていただくよう働きかけをしました。  
資源化の割合が変わることによって、最終処分量が大幅に減少となっております。

- 委員 放射能対策のため、燃やせないごみとして処理をされているとのことですが、現在の焼却灰放射線量について教えてください。  
また、東日本大震災以前は、剪定枝木等の資源化（肥料化）をされていたが、今後の予定について教えてください。
- 事務局 現在の焼却灰については、300～400ベクレルに落ち着いております。  
放射能の影響が少なくはなっていますが、剪定枝木チップ等を今後建設予定のリサイクルセンターにてどのように資源化するかについては、検討をしていきます。
- 委員 破砕処理施設・終末処理センターの施設の老朽化が課題になっていますが、施設を更新することによってどのような改善がされるのかお聞きします。
- 事務局 各施設について現在検討をしております。更新することによって現在の施設以上の仕様にしていきます。
- 委員 手賀沼の汚濁原因は何か？手賀沼がワースト1の汚名を返上できたこと等を注意喚起することにより生活排水処理の啓発に繋がるのではないのでしょうか。
- 事務局 過去の手賀沼では、生活排水系が汚濁の原因でした。  
現在は下水道の整備等がされ、生活排水系が減ったことで、汚濁負荷の割合としては、自然系が大きくなりましたが、自然系の負荷量が特に増えたということではありません。
- 委員 自然系については、農地からの化学肥料・農薬等があると思います。  
自然環境を良くするために、農業は有機栽培を実施した方が良いと考える国もあります。  
生ごみについても肥料化等でごみの減量や unnecessary 焼却をしない取り組みを環境経済部全体で連携をしていただきたい。

### (3) 議題事項「一般廃棄物処理手数料の改定について」

事務局から、ごみ処理経費の上昇に伴い、受益者負担及び公平性の観点から一般（家庭系）と事業系の料金を統一するとともに料金の改定について説明を行った。

#### 【主な質疑回答】

- 委員 我孫子市及び近隣4市のごみ処理経費から10kg当たりの経費では、柏市に次いで2番目に低いものの、市民一人当たりの経費では、5市の中で一番高くなっている理由についてお聞かせください。
- 事務局 他市と比較した場合に我孫子市の人口が少ないため、一人あたりの経費としては、高くなっています。
- 委員 平成21年度から令和3年度のごみ処理経費を比較すると、約3億円増加して、ごみ処理量については、約1割減少となっていますが、ごみ処理単価が上がっている理由をお聞かせください。

- 事務局 ごみ処理経費が増加した理由としては、物価の上昇による人件費等の増加が主な要因となっております。
- ごみ処理量が減少した理由としては、資源化率の上昇・人口の減少等が要因として考えられます。
- ごみ処理量が減少しても廃棄物の処理工程は変わらないため、経費が処理量と比例して減少することにはなりません。
- 委員 今回の改定は、クリーンセンターに直接搬入する場合の料金改定ということですが、ごみ処理経費の受益者負担としては、集積所の収集業務も指定袋等の有料化をするべきと考えますが、実施しない理由をお聞かせください。
- 事務局 無料のサービスが、税金だけで実施することができれば望ましいと考えております。
- しかし、今後さらに財政的に厳しくなる場合には検討していかねばならないと考えています。
- 収集サービス以外のコストについては、受益者負担の考え方を適用し、直接搬入のごみ処理手数料の改定としています。
- 会長 本日の議案については、本委員会で提案内容を承認いたします。

以上